

令和4年度 生物群集保護林の地帯区分の検討

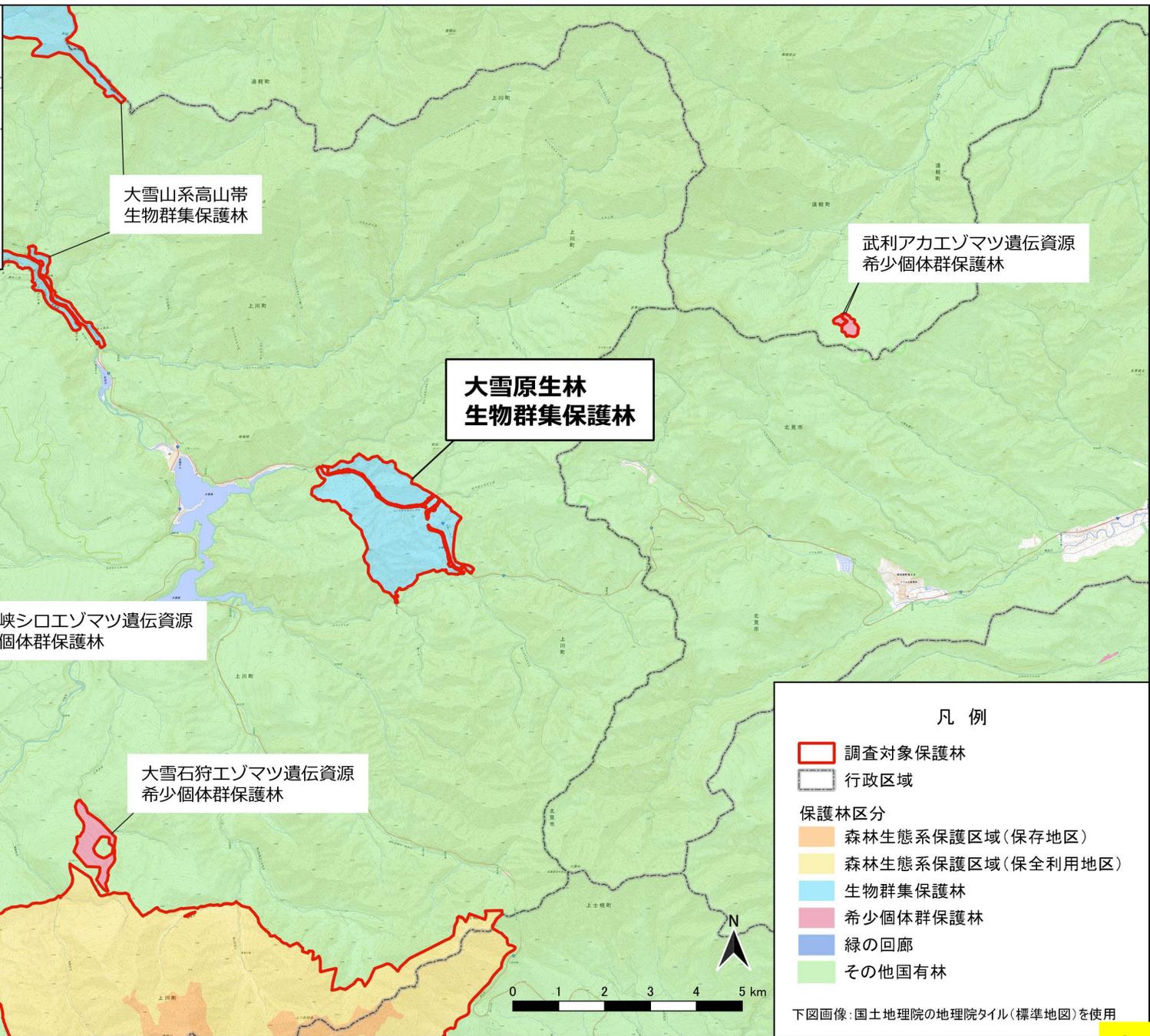
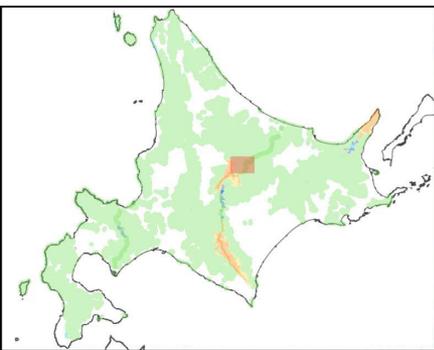
- ・20008 大雪原生林生物群集保護林
- ・20009 大雪山系高山帯生物群集保護林
- ・20019 奥尻島生物群集保護林

生物群集保護林の地帯区分の検討

経緯

- 平成29年度に7区分で管理していた保護林を「森林生態系保護地域」「生物群集保護林」「希少個体群保護林」の3区分に再編し、北海道森林管理局管内に19箇所の生物群集保護林を設定。
- 生物群集保護林の地帯区分については「**当面の間、全域保存地区とする**」こととし、5か年かけて順次地帯区分を検討することとしたところ。
- これまで検討した16箇所の生物群集保護林については、全域を保存地区としている。
- 今回の3箇所の検討をもって生物群集保護林の全箇所の管理方針が確定する。

20008 大雪原生林生物群集保護林



20008 大雪原生林生物群集保護林 (526.69ha)

保護林設定 目的と経緯

- ・大雪山系石狩川源流部を代表する原生的な極相林の亜寒帯性針葉樹林に見られる地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持等に資することを目的とする。
- ・昭和45(1970)年10月19日に、「大雪原生林保護林」として設定された。
- ・平成30(2018)年4月1日の保護林再編において、「大雪原生林生物群集保護林」として設定された。

保護対象と 生息・生育 区域

・石狩川源流部の生物群集を有する森林

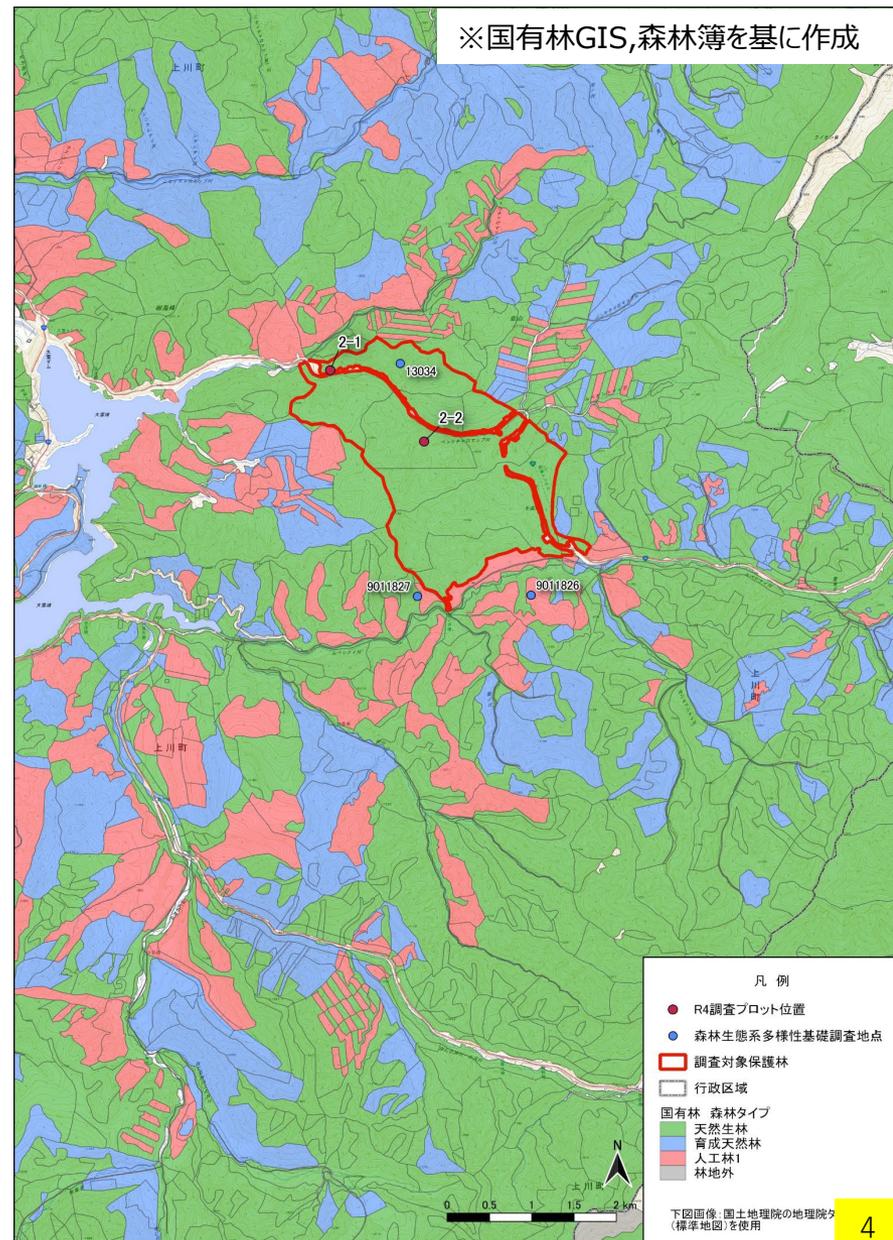
想定される 影響等

次ページ以降参照

地帯区分 (案)

次ページ以降の参照資料を基に判断する

※国有林GIS,森林簿を基に作成



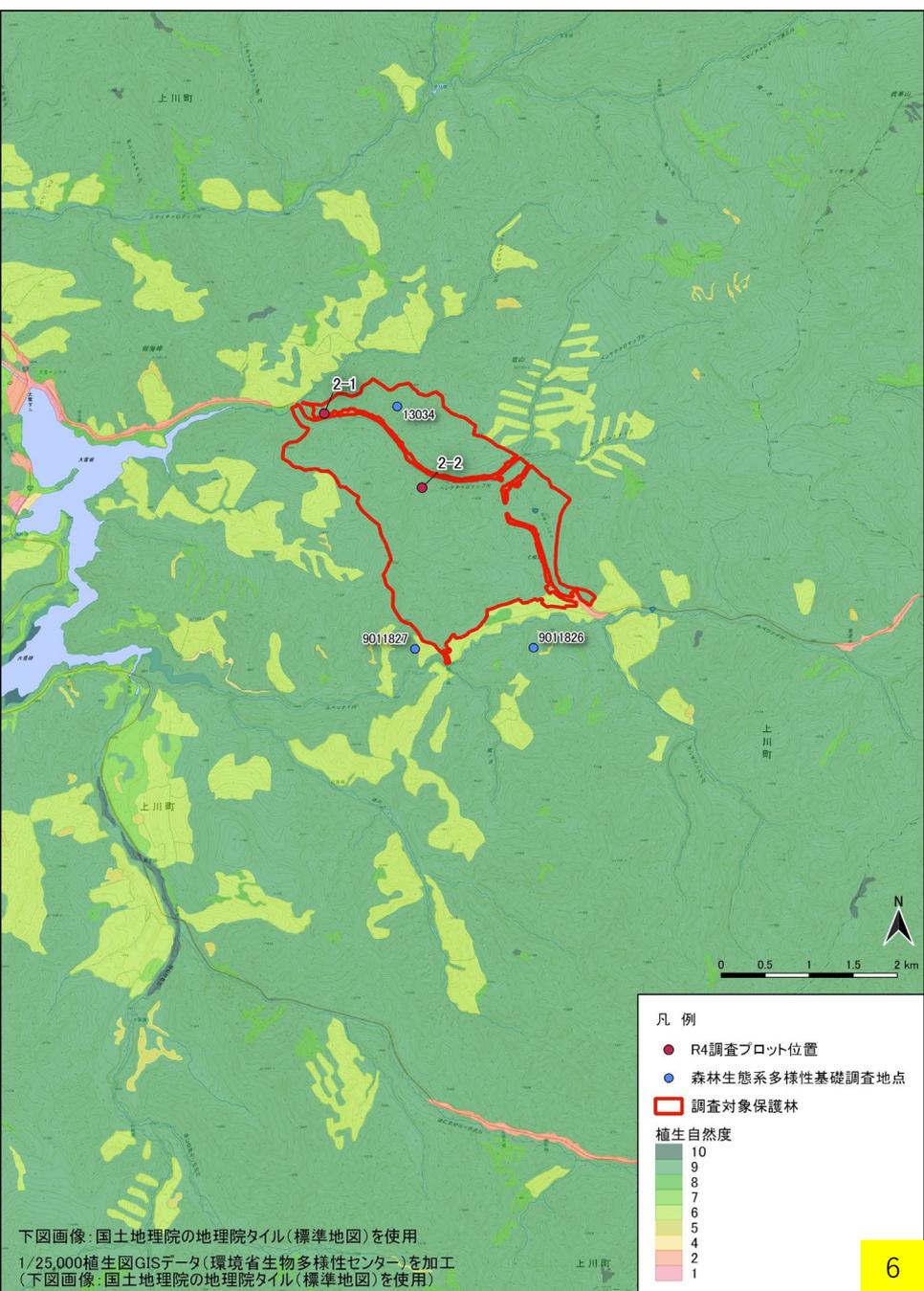
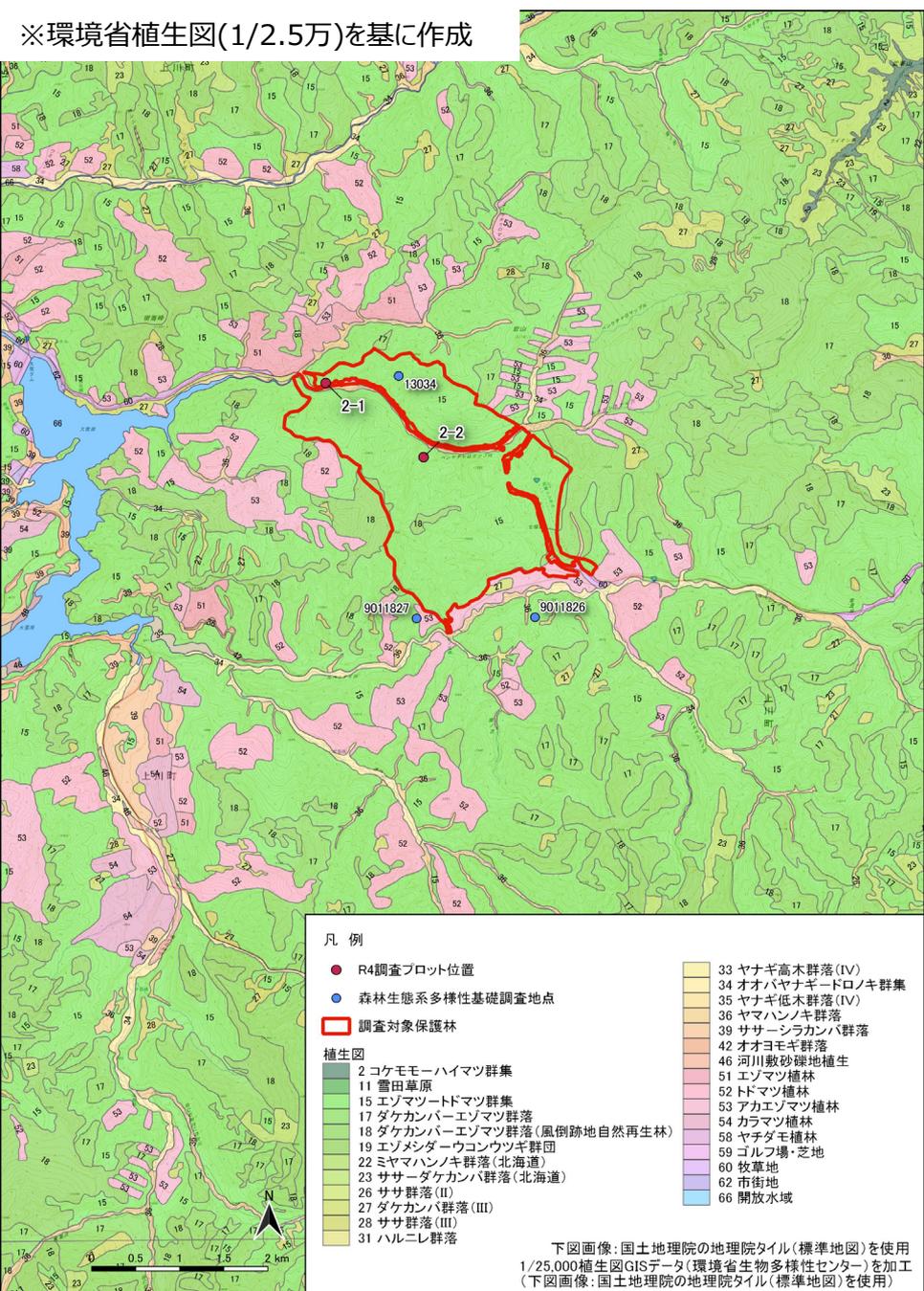


保護林の内観 調査プロット9011827

植生図 & 植生自然度図

※植生自然度は、環境省自然環境局生物多様性センター「1/2.5万植生図を基にした植生自然度について」.pdf（環生多発第1603312号 平成28年3月31日）を参考とした。

※環境省植生図(1/2.5万)を基に作成



大雪原生林生物群集保護林 調査プロットの概況(保護林プロット1)

植生		植生ランク		地形			
針葉樹林		植生自然度 9		山腹平衡斜面(傾斜 34°)			
H24				R4			
							
層	優占種等	高さ(m)	植被 (%)	層	優占種等	高さ(m)	植被 (%)
高木	トドマツ、エゾマツ	15~28	90	高木	トドマツ、エゾマツ	15~28	50
亜高	トドマツ	6~14	30	亜高	トドマツ、エゾマツ	13~14	70
低木	トドマツ	3~4	20	低木	トドマツ	4~6	5
草本	クマイザサ、シラネワラビ等	0.1~1.0	90	草本	トドマツ、シラネワラビ等	0.1~1.0	90

高木層で風倒はあったが、その後亜高木層の発達がみられ、林分の更新上問題ないと考えられる。
トドマツ、エゾマツは結実、稚樹もみられた。

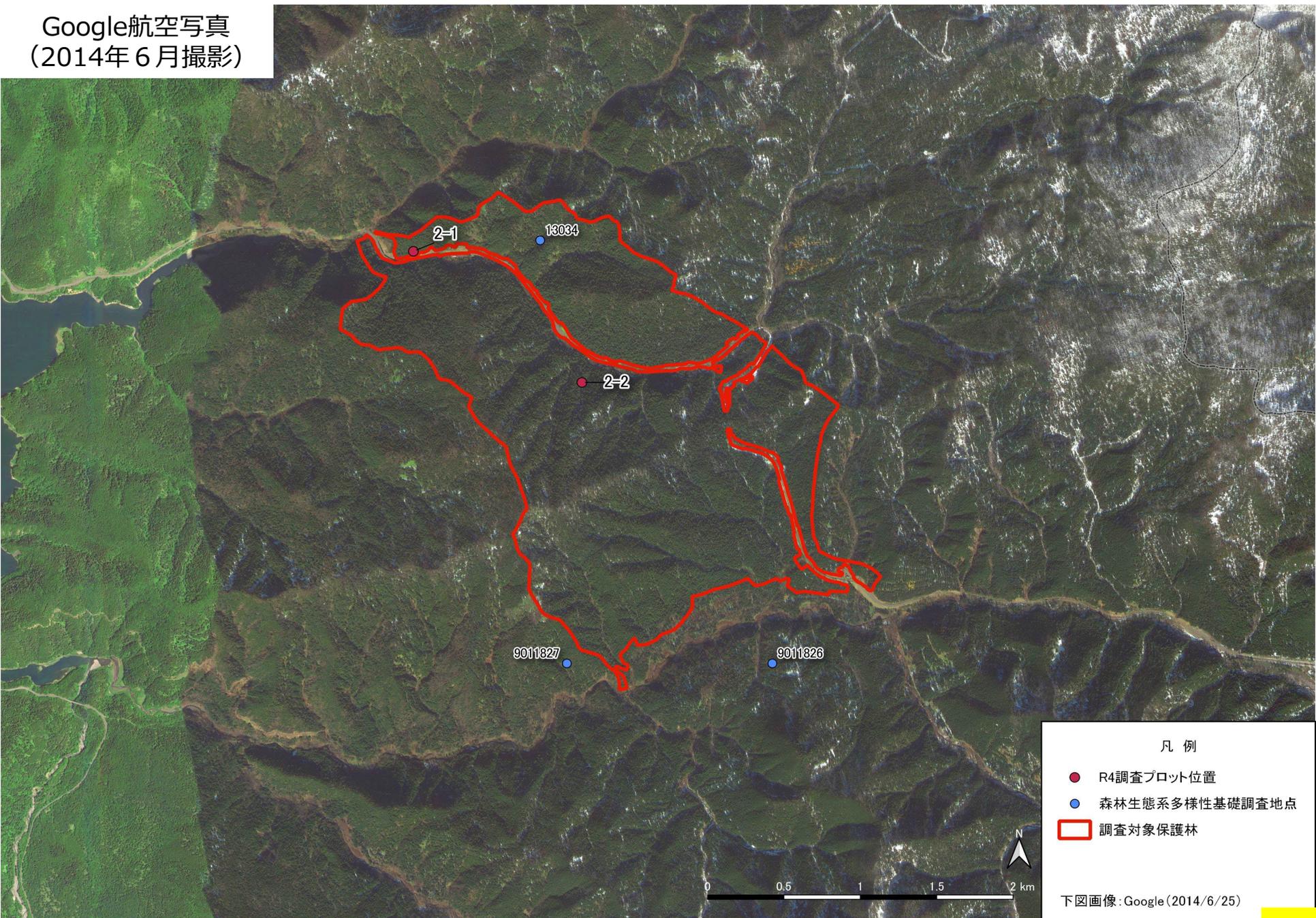
大雪原生林生物群集保護林 調査プロットの概況(保護林プロット2)

植生	植生ランク	地形																																							
針葉樹林	植生自然度 9	山腹平衡斜面(傾斜 19°)																																							
H24		R4																																							
																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>優占種等</th> <th>高さ(m)</th> <th>植被 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>トドマツ、エゾマツ</td> <td>17~32</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>トドマツ、エゾマツ、ダケカンバ</td> <td>6~16</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>トドマツ、アカエゾマツ、オガラバナ</td> <td>2~5</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>クマイザサ、スゲ属の一種等</td> <td>0.1~1.0</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table>	層	優占種等	高さ(m)	植被 (%)	高木	トドマツ、エゾマツ	17~32	70	亜高	トドマツ、エゾマツ、ダケカンバ	6~16	50	低木	トドマツ、アカエゾマツ、オガラバナ	2~5	40	草本	クマイザサ、スゲ属の一種等	0.1~1.0	90	<table border="1"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>優占種等</th> <th>高さ(m)</th> <th>植被 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>トドマツ、エゾマツ</td> <td>17~32</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>トドマツ、エゾマツ</td> <td>6~16</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>トドマツ、アカエゾマツ、クロウスゴ</td> <td>2~5</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>スゲ属の一種、クマイザサ等</td> <td>0.1~1.0</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	層	優占種等	高さ(m)	植被 (%)	高木	トドマツ、エゾマツ	17~32	70	亜高	トドマツ、エゾマツ	6~16	50	低木	トドマツ、アカエゾマツ、クロウスゴ	2~5	30	草本	スゲ属の一種、クマイザサ等	0.1~1.0	80
層	優占種等	高さ(m)	植被 (%)																																						
高木	トドマツ、エゾマツ	17~32	70																																						
亜高	トドマツ、エゾマツ、ダケカンバ	6~16	50																																						
低木	トドマツ、アカエゾマツ、オガラバナ	2~5	40																																						
草本	クマイザサ、スゲ属の一種等	0.1~1.0	90																																						
層	優占種等	高さ(m)	植被 (%)																																						
高木	トドマツ、エゾマツ	17~32	70																																						
亜高	トドマツ、エゾマツ	6~16	50																																						
低木	トドマツ、アカエゾマツ、クロウスゴ	2~5	30																																						
草本	スゲ属の一種、クマイザサ等	0.1~1.0	80																																						

健全な林分で、大きな変化はない。トドマツ、エゾマツはよく結実し、稚樹もみられた。

大雪原生林生物群集保護林 調査プロットの概況(森林生態系多様性基礎調査)

Plot	調査地の状況																							
13034		植生: 針葉樹林 植生ランク: 植生自然度 9 地形: 山腹凹斜面(傾斜 7°)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>優占種等</th> <th>高さ(m)</th> <th>植被(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>トドマツ、エゾマツ、ダケカンバ</td> <td>20~28</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>トドマツ、ダケカンバ</td> <td>4~15</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>エゾマツ</td> <td>3.5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>クマイザサ、エゾイラクサ等</td> <td>0.1~1.4</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	層	優占種等	高さ(m)	植被(%)	高木	トドマツ、エゾマツ、ダケカンバ	20~28	70	亜高	トドマツ、ダケカンバ	4~15	10	低木	エゾマツ	3.5	5	草本	クマイザサ、エゾイラクサ等	0.1~1.4	100	
層	優占種等	高さ(m)	植被(%)																					
高木	トドマツ、エゾマツ、ダケカンバ	20~28	70																					
亜高	トドマツ、ダケカンバ	4~15	10																					
低木	エゾマツ	3.5	5																					
草本	クマイザサ、エゾイラクサ等	0.1~1.4	100																					
9011826		植生: 針葉樹林 植生ランク: 植生自然度 9 地形: 山腹平衡斜面(傾斜 17°)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>優占種等</th> <th>高さ(m)</th> <th>植被(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>アカエゾマツ、トドマツ</td> <td>18~29</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>アカエゾマツ、トドマツ</td> <td>10~18</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>トドマツ、アカエゾマツ</td> <td>2~5</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>ゴゼンタチバナ、コミヤマカタバミ等</td> <td>0.1~2.0</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>	層	優占種等	高さ(m)	植被(%)	高木	アカエゾマツ、トドマツ	18~29	40	亜高	アカエゾマツ、トドマツ	10~18	60	低木	トドマツ、アカエゾマツ	2~5	10	草本	ゴゼンタチバナ、コミヤマカタバミ等	0.1~2.0	40	
層	優占種等	高さ(m)	植被(%)																					
高木	アカエゾマツ、トドマツ	18~29	40																					
亜高	アカエゾマツ、トドマツ	10~18	60																					
低木	トドマツ、アカエゾマツ	2~5	10																					
草本	ゴゼンタチバナ、コミヤマカタバミ等	0.1~2.0	40																					
9011827		植生: 針葉樹林 植生ランク: 植生自然度 9 地形: 山腹平衡斜面(傾斜 26°)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>優占種等</th> <th>高さ(m)</th> <th>植被(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>トドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ</td> <td>14~26</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>トドマツ、エゾマツ、ダケカンバ</td> <td>6~17</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>アカエゾマツ</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>クマイザサ、スゲ属の一種、等</td> <td>0.1~1.2</td> <td>60~70</td> </tr> </tbody> </table>	層	優占種等	高さ(m)	植被(%)	高木	トドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ	14~26	60	亜高	トドマツ、エゾマツ、ダケカンバ	6~17	40	低木	アカエゾマツ	5	5	草本	クマイザサ、スゲ属の一種、等	0.1~1.2	60~70	
層	優占種等	高さ(m)	植被(%)																					
高木	トドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ	14~26	60																					
亜高	トドマツ、エゾマツ、ダケカンバ	6~17	40																					
低木	アカエゾマツ	5	5																					
草本	クマイザサ、スゲ属の一種、等	0.1~1.2	60~70																					



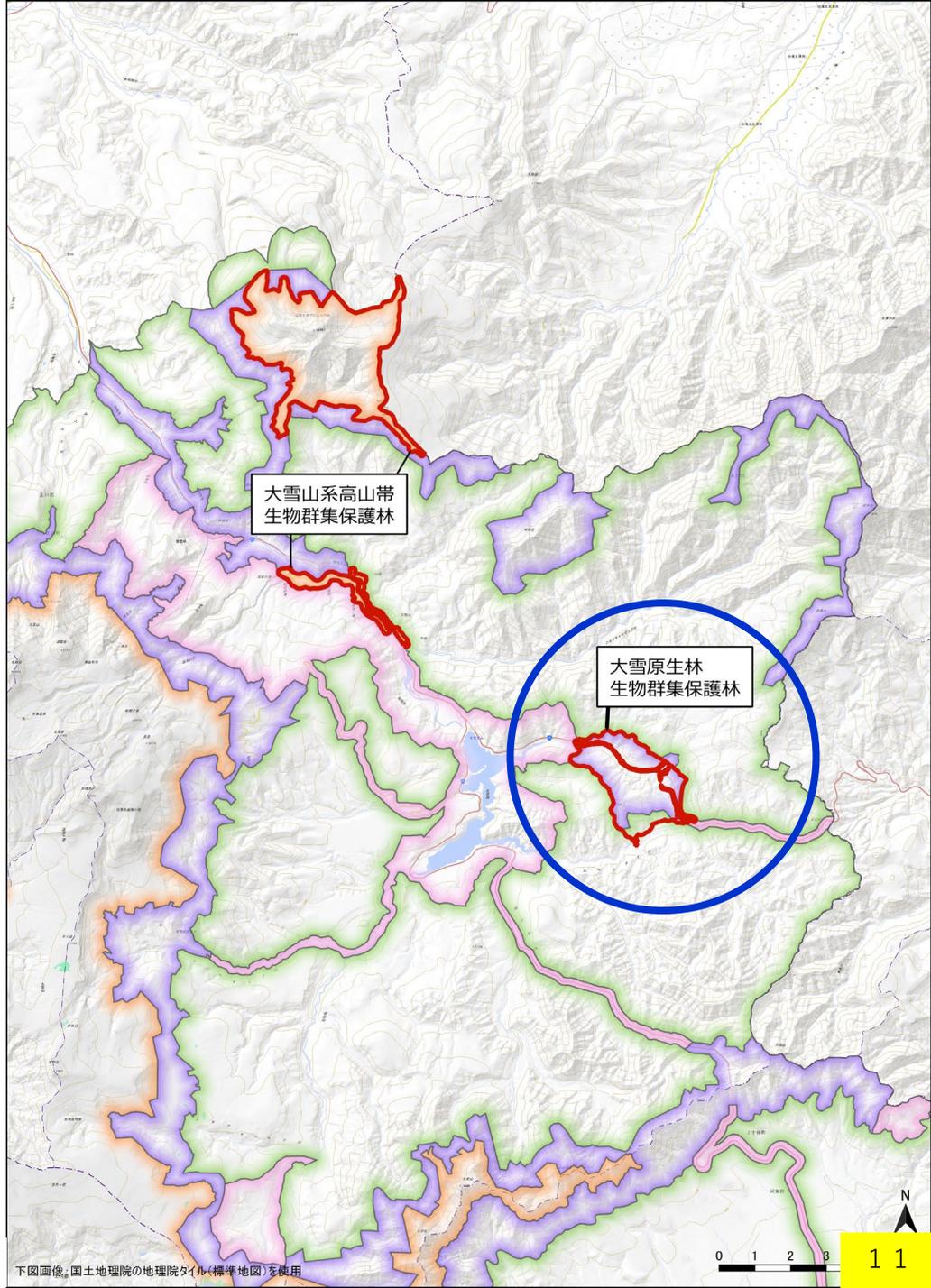
凡例

- R4調査プロット位置
- 森林生態系多様性基礎調査地点
- 調査対象保護林

下図画像: Google (2014/6/25)

大雪山国立公園 区域図 (一部抜粋)

本保護林の全域が大雪山国立公園に含まれており、そのほとんどが第1種特別地域に指定されている。



20008 大雪原生林生物群集保護林 (526.69ha)

提 案

保護林設定 目的と経緯

- ・大雪山系石狩川源流部を代表する原生的な極相林の亜寒帯性針葉樹林に見られる地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持等に資することを目的とする。
- ・昭和45(1970)年10月19日に、「大雪原生林保護林」として設定された。
- ・平成30(2018)年4月1日の保護林再編において、「大雪原生林生物群集保護林」として設定された。

保護対象と 生息・生育 区域

- ・石狩川源流部の生物群集を有する森林

想定される 影響等

- ・保護林の大部分が大雪山国立公園の第一種特別地域に含まれる。
- ・全域が鳥獣保護区に指定されている。
- ・保護林の外周は大部分が天然生林および育成天然林に囲まれているため、保護林区域への環境の急激な変化は想定されないものとする。

地帯区分 (案)

全域、保存地区とする。

